



羅針盤 R元年度-No.7

平和の誓い・願いを継ぐ！

学校は失敗するところ！

授業は間違えるところ！ 恐れずチャレンジ!!

子供の成長を教育活動の中核に！ One for all. All for one.

令和元年 8月7日(水)

昭島市立拝島第二小学校

校長 小瀬 和彦

## 教職員の皆様へ

毎日猛暑が続いますが、教職員の皆様にはお健やかにお過ごしのことと思います。日頃より学校教育活動に御尽力をいただき、誠にありがとうございます。2学期に備えて、ご自愛ください。

### 平和の誓い・願いを受け継ぐ！

広島への原爆投下から74年となった6日、広島市中区の平和記念公園で平和式典が開かれました。全国の被爆者数は3月末現在で14万5844人と、今年初めて15万人を割ったそうです。みなさんは、このことについて、何を感じ・考えますか。

教職員の皆さん、下記の「広島平和宣言（一部抜粋）」を必ずお読みいただき、教職員の皆さんのが、皆さん自信が「感じたこと・考えたこと」を、2学期に入ったところで、子供たちに「メッセージ！」として伝えてください。よろしくお願ひします。

#### 広島平和宣言（一部抜粋）

今世界では自国第一主義が台頭し、国家間の排他的、対立的な動きが緊張関係を高め、核兵器廃絶への動きも停滞しています。このような世界情勢を、皆さんはどう受け止めていますか。二度の世界大戦を経験した私たちの先輩が、決して戦争を起こさない理想の世界を目指し、国際的な協調体制の構築を誓ったことを、私たちは、今一度思い出し、人類の存続に向か、理想の世界を目指す必要があるのではないでしょうか。

特に、次代を担う戦争を知らない若い人に、このことを訴えたい。そして、そのためにも1945年8月6日を体験した被爆者の声を聴いてほしいのです。

当時5歳だった女性は、こんな歌を詠んでいます。「おかげの頭(づ)から流るる血しづきに 姉抱きて母は阿修羅(あしゅら)に」。

また、「男女の区別さえ出来ない人々が、衣類は焼けただれて裸同然。髪の毛も無く、目玉は飛び出て、唇も耳も引きちぎれたような人、顔面の皮膚も垂れ下がり、全身、血まみれの人、人」という惨状を18歳で体験した男性は、「絶対にあのようなことを後世の人たちに体験させではなくない。私たちのこの苦痛は、もう私たちだけでよい」と訴えています。

生き延びたものの心身に深刻な傷を負い続ける被爆者のこうした訴えが皆さんに届いていますか。

「一人の人間の力は小さく弱くても、一人一人が平和を望むことで、戦争を起そうとする力を食い止めることができる」と信じています」という当時15歳だった女性の信条を単なる願いに終わらせてよいのでしょうか。

世界に目を向けると、一人の力は小さくても、多くの人の力が結集すれば願いが実現するという事例がたくさんあります。インドの独立は、その事例の一つであり、独立に貢献したガンジーは辛く厳しい体験を経て、こんな言葉を残しています。

「不寛容はそれ自体が暴力の一形態であり、真の民主的な成長を妨げるものです」。現状に背を向けることなく、平和で持続可能な世界を実現していくためには、私たち一人一人が立場や主張の違いを互いに乗り越え、理想を目指し共に努力するといふ「寛容」の心を持たなければなりません。

そのためには、未来を担う若い人たちが、原爆や戦争を単なる過去の出来事と捉えず、また、被爆者や平和な世界を目指す人たちの声や努力を自らのものとして、たゆむことなく前進していくことが重要となります。(略)